

三門

ここは増上寺の正門、三門です。仏教の浄土宗では、この門をくぐるものはむさぼり、いかり、おろかさの三毒から解放されるとされています。実は、三門は内門です。後ろを振り返ると、真正面に元の正門が見えます。

正式には三解脱門と呼ばれるこの門は、1622年に将軍の大工頭によって建造されたもので、増上寺の建立当時から残っている唯一の建物です。三門は東京で最も古い木造建築物のひとつで、国の重要文化財に指定されています。

上層に切妻屋根、下層に寄棟屋根を配する凝った建築様式は、6世紀頃、仏教が日本に伝来したのと大体同じ時期に中国から伝えられました。欄干のシンプルなデザインはより日本的な建築美学を反映しています。鮮やかな朱塗りの外観は、江戸（現在の東京）で最も有名なランドマークのひとつでした。

現在は一般公開されていない二階部分には、二菩薩と十六羅漢（釈迦の最も献身的な弟子たち）を従えた釈迦牟尼仏の像が安置されています。これらの像は全て江戸時代（1603–1867）初期に作られました。増上寺を訪れた人は、通常お寺の入り口に置かれている、恐ろしい顔で不屈きものを追い払う2体の仁王像がないことに気づくかもしれません。これは、増上寺が属する浄土宗が仏教を一般民衆に広めるために開かれた宗派であるためです。「南無阿弥陀仏（私は阿弥陀様に皈依します）」と念仏を唱える人は誰でも救済を得られるとされているのです。

10年間かけて行われる三門の改修工事は、2025年4月に着工が予定されています。